

正解

1 「火事だ！」と大声で叫ぶ（エ）

周囲の人に火災を知らせ、人を集めるために大声で「火事だ！」と叫ぶことが何より重要です。人が集まれば、必要なことを分担してできるでしょう。

2 エプロンを濡らして軽く絞り、鍋にかける（シ）

濡れたエプロンを鍋にかけることによって酸素を遮断し、窒息消火ができます。

3 ガスこんろの栓を閉める（イ）

ガスの栓を閉めてこんろの火を消さなければ加熱は続きます。これは案外忘れがちですが、大切なポイントです。

4 子どもたちに逃げるように呼びかける（キ）

この状況で危険なのは2階にいる二人の子どもです。早く知らせて避難させなければいけません。

5 119番に通報する（サ）

早く知らせないと手遅れになります。慌てず、正確に「住所、建物の名称と何が燃えているのか」を通報することが必要です。

6 マヨネーズを入れる（ク）

温度を下げることによる冷却消火と、溶けたマヨネーズが油面を覆う窒息消火に効果があります。

7 物置にしまってある消火器を取りに行く（オ）

この解答で問題なのは消火器を「物置にしまってある」ことです。消火器はいざというときに使いやすい場所がないと困ります。

8 洗って切った野菜を鍋に投げこむ（ア）

野菜類に水滴がついていたり、投げこむ際に油が飛び散ったらかえって危険です。

9 30秒間火の様子を観察する（ケ）

状況を把握するのはとても大切なことですが、30秒は長すぎます。それに、現実には煙と臭いが充満して、部屋の中にとっても30秒もいられません。

10 2階へ貴重品を取りに行く（ウ）

一番大切なのは自分の命のほうです。ものに気をとられて逃げ遅れたら大変です。

11 火がついたままの鍋を窓から投げる（カ）

実際の火災現場では結構あることですが、窓の外に人がいたら大変ことになります。

12 鍋に水をかける（コ）

水をかけた瞬間、火は爆発したように何倍にも大きくなり、あなたも大ヤケドを負います。これだけは絶対にやってはいけません。